

健康文化

雑感四題

平瀬 暢子

感動

小学一年生の孫がこころの詩大賞に入賞して表彰状を戴きました。そのことは珍しいことでも何でもないのでありますが、表彰状の言葉は私達に大変な感動を与えたのです。

『表彰状／〇〇さん／あなたが応募された作品は第六回こころの詩大賞コンクールにおいて数多くの応募作品の中から厳正審査の結果入賞に選ばれました。おめでとうございます。あなたが持っているものごとを深くみつめる眼、豊かに感じる心に敬意を表します。これからもいろんな「こころ」を自分の声でうたってきかせてください。審査委員長 無着成恭』とご自分が一枚一枚、毛筆でお書きになった表彰状を戴きました。無着成恭先生ときいてもご存じない方もあるかも知れませんが、山形の過疎の村の小学校で生徒たちに素晴らしい作文を書かせたことで有名な方です。今は評論家でいらっしゃいます。一体私達のだれが、こんな心のこもった素晴らしい表彰状を戴いたことがあるのでしょうか。

何時のことだったか忘れましたが新聞で、有名な先生の二度めの退官に当たって次なる就職先が三流の学校であると書かれておりました。「今までは優秀な生徒を教えておられましたが、今度は格段の差がありますが？」との記者の質問に対して、「教育とは喜び、楽しさ、感動を与えることであって、知識を授けることではないから」と答えておられたことを覚えております。

年長の孫は塾通いが始まりました。感動のないまま鉛筆を走らせ脈絡のないまま覚えたものが身につくのでしょうか？今若いお母さんの間ではよい学校、偏差値の話に熱心です。いろいろな分野で活躍している人は、そこに到るまでにはかなりの厳しさはあった筈ですが、それに増す感動、喜びが大人によって与えられています。よい学校、偏差値を言う前に感動をどう与えることができるかを、大人が考えてみることでないでしょうか。

幻想？

「役員会 肩書とれば 老人会」サラリーマン川柳のなかでこんなのを讀みました。

「私がいなくなったらどうなると思う？」と、私がまだ小学生のころ、母にきかれて、「何とかなるんじゃない？」と答えたことにより大変な怒りをかかったことを覚えています。開業医で大勢の家族（子供だけで六人）や従業員を抱えていた母は、気の休まる時がなかったのか、よくヒスを起こしていました。子供を残して母が死んでしまったら大変なことになるのですが、子供の私にとってはヒスをおこす母なんて面倒くさくてたまらなかった。子供達はよく手伝っていましたし、祖母もいて従業員も沢山いたので別に不都合を感じていませんでした。むしろ自分はこの家にとって最も必要な人間であると思っている母を、「そうかなあ」というぐらいにしか思っていなかった。最近、私の周りにも自分がいなくなったらとの思い込みの激しい人をよく見かけます。親は子供に、上司は部下に怒っても許されると思っている人がいます。怒らなければならない時もあるでしょうが、多くのヒスは自分の実力のなさにあります。「気の変わる人に仕えてつくづくこの世が嫌になりけるかな」とは石川啄木の歌ですが、親と上司を選べない子供にとって「この世が嫌になりけるかな」かも。

カタカナ語

「インフォームド・コンセント」（説明と同意）の意味を知っている人は5人に1人、「バーチャルリアリティー」（仮想現実）は4人に1人と文化庁が5月17日、国語に関する世論調査でこんな結果がでたと発表していました。「カタカナ語の意味が判らなくて困ることはない」と答えた人は1割しかおらず、つまり9割の人は困っているわけで文化庁は「外来語には説明をつけてもっと判り易くする必要がある」と言っていると新聞の片隅に書かれておりました。外来語をこんなにまで乱用するのは国際化に追いつけ追い越せで、僅かでも知っている言葉を忘れたくないからなののでしょうか、それとも国民のほとんどが大学出のため、一流と二流の差をつけて己を良く見せるためなののでしょうか、「インフォームド・コンセント」「バーチャルリアリティー」ほど難しくないにしても、やたらと外来語を使って簡単な話を難しく話す人が多くなりました。「難しいことは易しく、易しいことは深く、深いことは愉快に」は作家の井上ひさし氏が、心掛けておられることだと読んだことがあります。もし外来語を忘れたくないという理由ならば、文化庁が言うように一言いったあとに、必ず日本語訳をつけ加えれば自分の勉強を確実なものにすること請け合いです。「インフォ

ームド・コンセント」は医者の方として知っていますが、「きちんと説明をして同意を得なければなりません」といったほうがどんなに判り易いことか。日本語で言うよりピッタリの言葉を聴いたときはいいのですが、そうでないときは異物をのみこんだようで落ち着きません。「それは日本語で何と言いますか」と間髪をいれずに問い返せばいいのに、知らないのが悪いことのようにそっとメモをして帰る。こんなことを書くと自分の恥をさらけ出すようですが、話している人も本当に判っているのでしょうか。「申し訳ございませんが、その言葉は知りませんので日本語でお願いいたします」一度勇気をだしていつてみようかな？

発想の転換

物語はいたって簡単な映画“デーヴ”の話。

人材派遣業を営むデーヴという男性がソックリサンを得意とし、自分自らを派遣して街頭でアメリカ大統領の真似をしていると、本当にホワイトハウスに替え玉として雇われてしまった。ホワイトハウスでは、一時の替え玉のつもりが大統領が浮気の最中に心筋梗塞になり、国民に真実を知らせるわけにもゆかず、そのままいすわってもらいより仕方なくなってしまう。ところが替え玉大統領は、素晴らしい政治をして国民の信頼をうるといってお話。という皆さんは「何だわざわざ見に行く程のことはない」とおっしゃるかも知れませんが、ワハハッと笑ってなかなか考えさせられました。替え玉大統領の素晴らしい政治とは、実は発想の転換なのです。大統領夫人に頼まれていたにもかかわらず否決されてしまった福祉の予算を、友人の助けを借りて正攻法で獲得に成功するというお話です。今、余りにも専門家バカが多すぎて、素人の参入を良しとしない風潮があります。ところが素人が「おかしいな」と思っていることで当たっていることは意外にあるものなのです。

3、4年前のことですが、孫と一緒に交通公園へゴーカートを乗りに行きました。ゴーカートは3年生以上でないと一人で乗せてくれません。3年生以下は父兄同乗なのです。ところが二人とも幼稚園生です。乗りたいのはお兄ちゃん。「お兄ちゃんと先に乗ってくるから妹のアアちゃんはここで待っていてね。お兄ちゃんがすんだらアアちゃんよ。」と、兄が先にするのが当然のこととして言いさせたのですが、一緒に乗るのだと言ってきかないのです。ところが大人が二人の子供をのせるのは禁止です。切符きりのおじさんおばさんも加えて、大人が入れ替わりたちかわり、「ここに待っていてようよ」と説得するのですが、妹は頑としてききません。後の方に先に乗っていただいて、私達3人で相談です。「こ

んなのはドーオ？ アアちゃんが先におばあちゃんと乗って、次に僕が乗るのは？ ぼくはアアちゃんが乗っている間待っているから」「ウン、イイヨ」あっさり解決してしまいました。その後、おばあちゃんとお兄ちゃんは何度も乗り回りました。

(主婦)